



2022年12月期 第2四半期 オンライン説明会資料

2022/08/10

アース製薬株式会社

アース製薬の川端でございます。日頃は当社をご支援いただき、誠にありがとうございます。

本日は、事前にHPへ掲載しております業績説明動画をご覧くださいという前提で、ポイントを絞って説明いたします。

(参考) 業績説明動画 : <https://corp.earth.jp/jp/ir/index.html>

エグゼクティブ・サマリー ①



・ 業績の状況 ※ 前期実績は本年の基準を適用したと仮定し、調整

- ▶ 売上高 : 893億円、計画比▲ 2.4%、前期比*+ 2.0%
- ▶ 営業利益 : 119億円、計画比▲10.2%、前期比*▲11.7%
- ▶ 通期業績見通しについては、現時点で当初計画を据え置く

・ カテゴリー別の状況

- ▶ 虫ケア : 高価格帯の新製品は出荷好調も、天候影響により市場は低調な推移
- ▶ 日用品 : 概ね計画通りの進捗、その他日用品が増収をけん引

・ 海外の状況

- ▶ 中国 : ロックダウン影響により、業績低迷
- ▶ ASEAN : タイ・ベトナム中心に好調、マレーシア、フィリピンへの新規展開加速

© Earth Corporation All Rights Reserved.

*前期実績について、本年の基準を適用したと仮定した場合の参考値

1

2Qのサマリーです。

売上高は893億円となり、前年比+2.0%となりました。しかし、計画が重要であり、計画対比では▲2.4%と未達となっています。営業利益は119億円となり、前年比、計画比ともに下回っています。この状況を鑑みると通期見通しに対する考え方が気になるかと思いますが、現時点で通期業績見通しは当初計画を据え置きます。据え置く理由は後ほどご説明いたします。

カテゴリー別の虫ケア用品については、原材料価格高騰の影響が見えてきている段階でもあったことから、試験的な意味も込めて、高価格帯の新製品を発売いたしました。出荷および消化は好調で、手応えを感じています。来期以降の価格転嫁実施に向けての土壌ができたかと思っています。一方で、天候面がマイナスにはたらき、マーケットは低調に推移しています。

日用品は天候影響は少なく、概ね計画通りの進捗であり、虫ケア用品のマイナス部分をカバーする側面をもっていると考えています。

海外の状況です。日本だけに頼る事業から脱却するために海外に進出しているのですが、概ね海外は順調です。しかし、国によって違いはあり、中国はロックダウンの影響が大きくでています。一方、タイやベトナムを中心としたASEANは計画通りに進捗し、好調です。

• 原材料価格高騰、為替変動による影響

- ▶ 2Q計画に対しての影響額：3億円
- ▶ 通期計画に対しての影響額：10億円程度を想定
- ▶ 足元の為替動向が続いた場合、年間計画に対して3～4億円を想定

• 通期業績見通し

- ▶ 現時点では当初計画を据え置く

原材料価格高騰の影響が顕在化しています。もちろん計画立案時にもある程度の影響を織り込んではいましたが、現状では、計画以上の影響がでてきています。2Q時点では3億円、通期では最大10億円程度を想定しています。また、為替変動の影響については、当社の場合は取引規模から人民元の影響が大きくなります。現状のレートが続くと、年間計画に対して3～4億円を想定しています。

アグレッシブと思わるかもしれませんが、このような影響はありつつも対策を講じていくため、通期見通しは変更いたしません。



2022年12月期 通期業績見通し

続いて、通期の業績見通しに関する説明です。

2022年 通期業績見通し



(単位：億円)

- 原材料価格の高騰や為替変動など、想定を上回る影響を受けるが、**通期見通しは変更しない**
- 計画外の新製品上市によるトップライン成長、コスト抑制などのリカバリー施策を準備

2022年 計画



(単位：億円)

- 原材料価格高騰の影響を受けるほか、成長に向けて必要な費用を適切に投入
- 厳しい環境下の中、100億円超の営業利益かつ過去最高の純利益を目標とする

2021年12月期
業績説明資料より再掲載

	2022 計画	ポイント	2021 実績	2022 計画
売上高	1,550	・ 実質 +73億円、平年並みの天候を前提とした市場予測 虫ケア用品返品率：6.5% → 6.0%へ	2,037	2,110
売上総利益	668.5	・ 原材料価格高騰によるコスト増：▲12.5億円と想定 粗利増は確保するものの、利益率は若干の低下見込み	823.3	850.5
販管費	561.0	・ 研究開発、基幹システムの改修に係る費用など 将来成長に向けた費用を積み増し	716.6	743.0
営業利益	107.5	・ 2021年と同水準の営業利益を確保	106.6	107.5
親会社株主帰属 当期純利益	72.8	・ 過去最高益	71.4	72.8
ROE	12%台	・ 2021年と同等の資本効率を目指す	12.4%	12%台

© Earth Corporation All Rights Reserved.

(参考) 従来基準

8

© Earth Corporation All Rights Reserved.

4

現段階では、通期の業績見通しは変更いたしません。そのために様々な策を講じていこうと考えています。

前提として、自助努力で対応できる部分とそうでない部分の2つに分けて、対策を考えています。コストの更なる抑制（経費コントロール）は自助努力の範囲です。また良い意味で、素早く予定外の新製品ローンチを行うことができる体制と、それを配荷できる営業力は強みだと考えています。

一方、天候面はコントロールできません。昨年8月の虫ケア用品のマーケットは非常に悪い状況でした。比べて、今年は良い天気が続き、足元の出荷も非常に好調です。これらを鑑みると、最悪の状況にはならないと考えています。

■ 当初計画外の新製品発売による売上拡大

- ・ 当初計画には含めていないものも含め、秋に日用品の新製品66SKUをローンチ
- ・ 売上高目標：26億円

■ 経費コントロールの実施

- ・ 収益確保に向けた効率的な経費の活用を実施
- ・ ただし、持続的な成長に必要な費用は積極的に投じる

■ 価格転嫁の先行実施

- ・ 除湿剤、保温材など一部の日用品でこの秋から実施予定
- ・ 海外では既に実施スタート

今秋に当初計画外を含めて新製品を66SKU、発売します。売上目標は26億円としていますが、当初計画では15億円としており、これで11億円の積み上げを目指します。自助努力の範囲と考えています。

計画外の新製品ローンチで4～5億円、経費コントロール等で9～10億円の利益貢献を目指す考えです。残りの5～7億円くらいが天候に左右される部分になります。

ですので、今期の営業利益目標を107億円としていますが、100億円を最低ラインとしながら、100～107億円の間で必ず着地させていきます。自助努力によって、100億円は下回ることがないように死守していく考えです。そうなれば、自力がついた会社と評価していただければと有難いと思います。

今期は自助努力でできることは取り組みながら進め、来期また中計の最終年度の達成に向けて、価格転嫁等も実施していかなければいけないと考えているところです。



今後の経営の方向性

今後の経営の方向性です。

価格転嫁の方針

市場拡大はトップメーカーの責務



■ 高価格帯製品の売れる土壌づくり



■ 2023年 虫ケア用品を中心に価格転嫁を実施

- ・ 購入頻度、価格弾力性、市場シェア、当社業績への影響を総合的に判断
- ・ 価格転嫁の実施により、営業利益率を+1pt程度押し上げる想定

原材料価格高騰・為替変動

原価の状況

- パーム油由来の原材料、原油価格に連動する原油を中心に高騰
- 海外調達品目における為替変動の影響（為替の単価への反映含む）も受ける



価格転嫁に関する方針です。

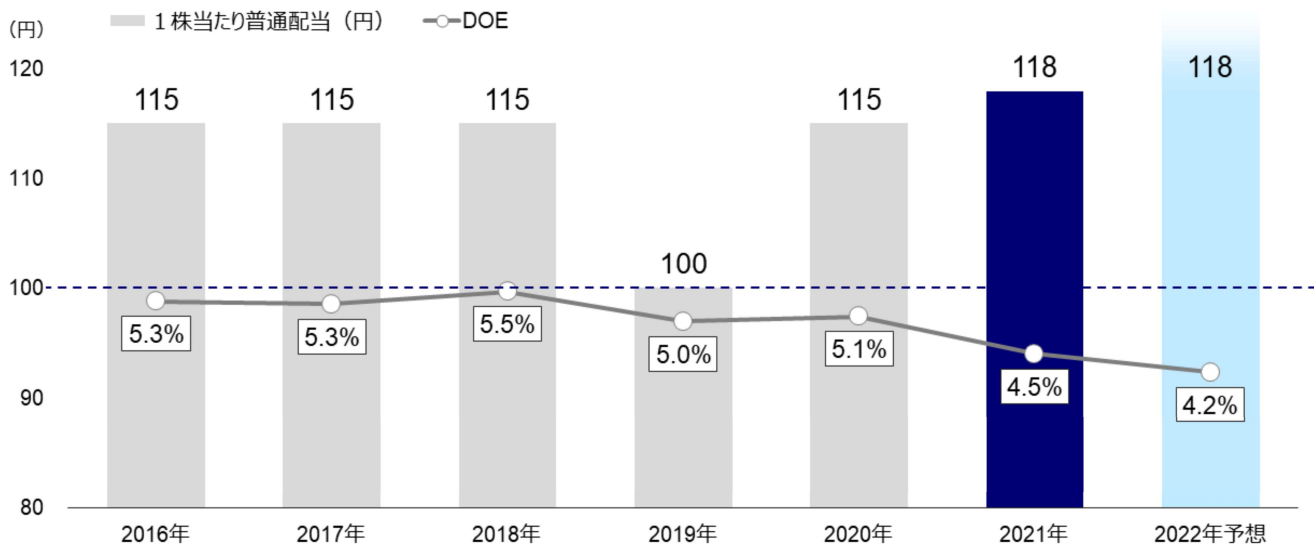
虫ケア用品を中心に価格転嫁を検討しています。トップメーカーという立場であるため、マーケットの動向や消費者の動向を見つつ、実行に移す責任があります。ただし、今期中ではなく、来期からスタートします。値上げ対象も既に決めており、各取引先とも話をする段階にきています。

価格転嫁を実行するための土壌づくりとして、今年の高価格帯製品の発売があります。

来期は15億円の価格転嫁を行い、営業利益率を1ポイント程度押し上げます。

株主還元

- 純資産配当率（DOE）4～5%を目安に配当
- 2022年予想 1株当たり配当金118円、DOE4.2%、連結配当性向35.8%
- 業績や必要な内部留保の水準に応じて、増配・自己株買いなど機動的に検討



© Earth Corporation All Rights Reserved.

8

最後に株主還元についてです。

今期の営業利益107億円を目標に進めていきます。先ほど天候面は不調と申しあげましたが、経験値としては悪い状況にはならないと、本日時点では考えています。

下期の状況をしっかり見ながら、DOEと配当性向を重視し、118円を最低ラインとして、増配の可能性も視野に入れていきたいと思えます。

地球を、キモチいい家に。



EARTH
Act For Life

以上で、説明を終わります。